

主 催	地方議員研究会
日 時	令和2年1月30日
場 所	TKR東京駅日本橋カンファレンスセンター
テーマ	(午前) 人口減少の現実と課題の共有 (午後) 人口減少対策・日本の成功例
対応者 (講師)	元佐賀県武雄市長 樋 渡 啓 祐

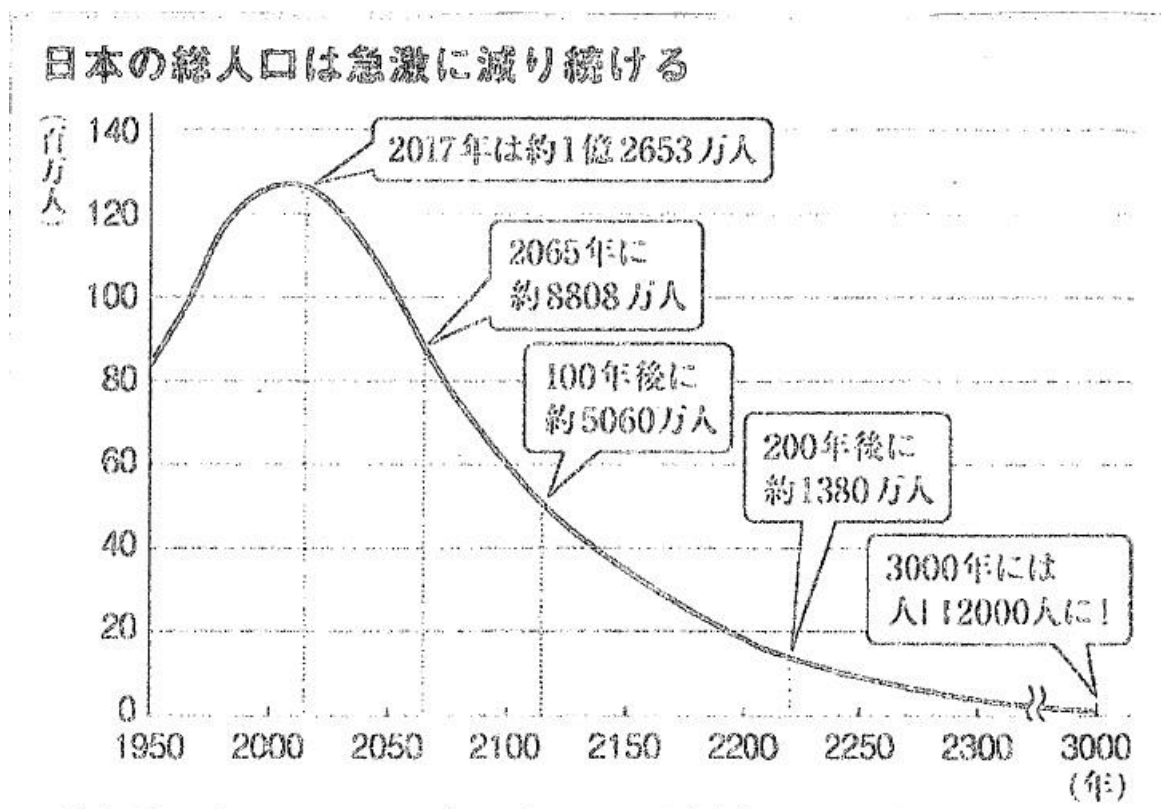
概 要

◆人口減少の現実と課題の共有

1. 人口減少の何が問題か？

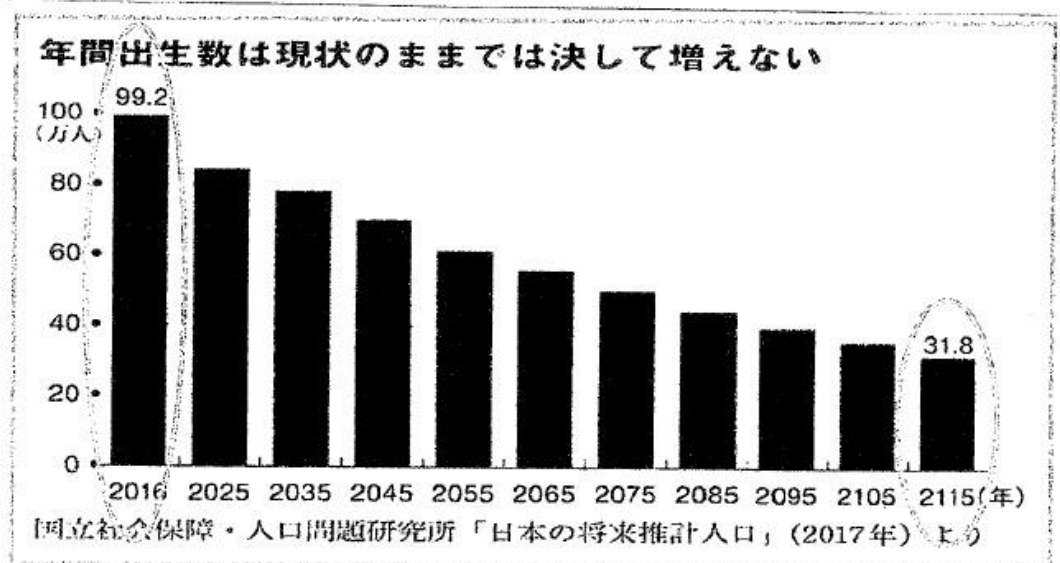
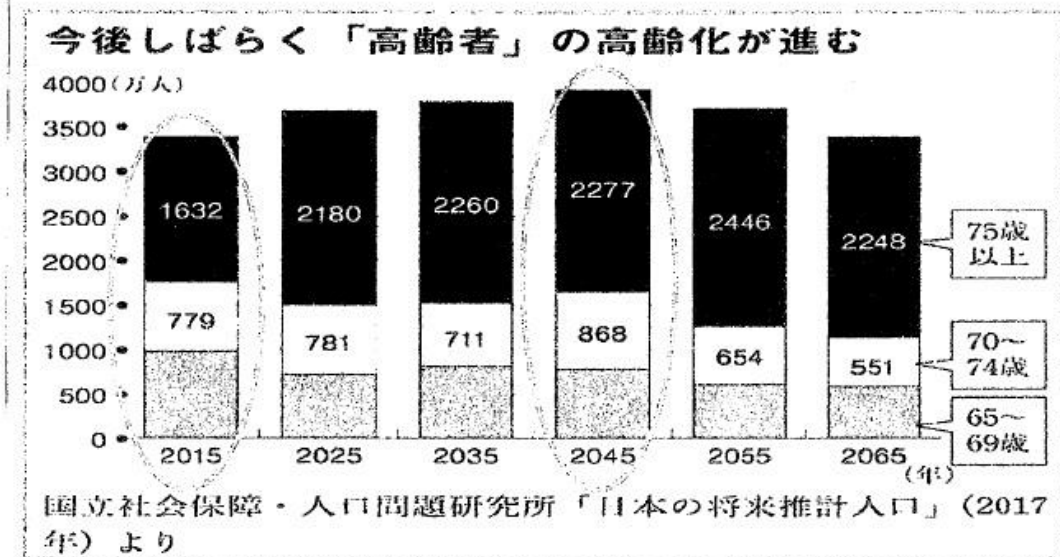
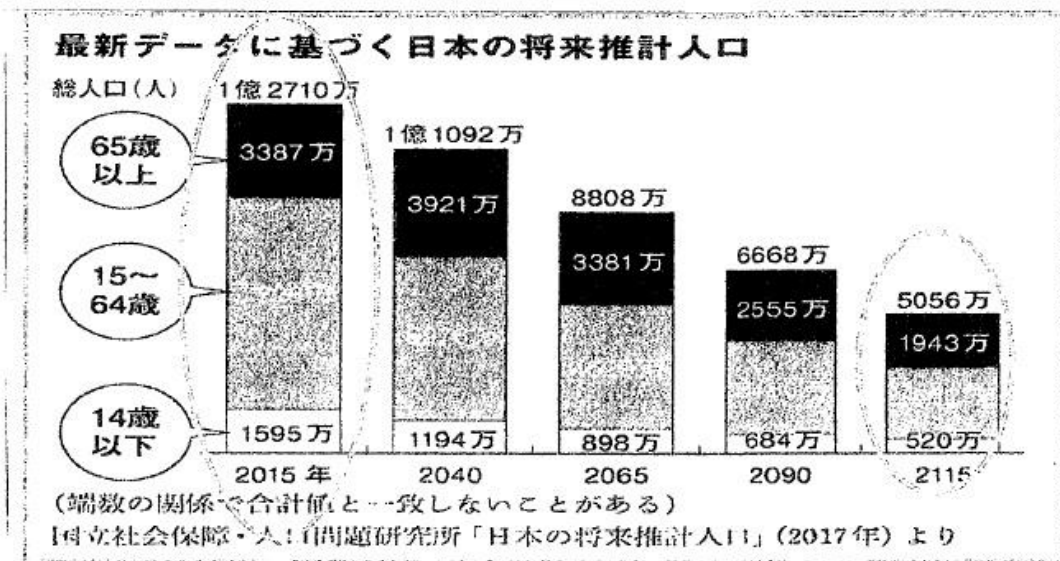
今取り上げるべきなのは、人口の絶対数が激減したり、高齢者が激増したりすることによって生じる弊害であり、それにどう対応していけばよいのかである。経済が成長し続けたとしても、少子化に歯止めがかかったり、高齢者の激増スピードが緩んだりするわけでは断じてない。

われわれは決して楽観論に逃げ込むことがあってはならない。“不都合な真実”であっても目を背けず、それに立ち向かう選択をしなければならないのである。

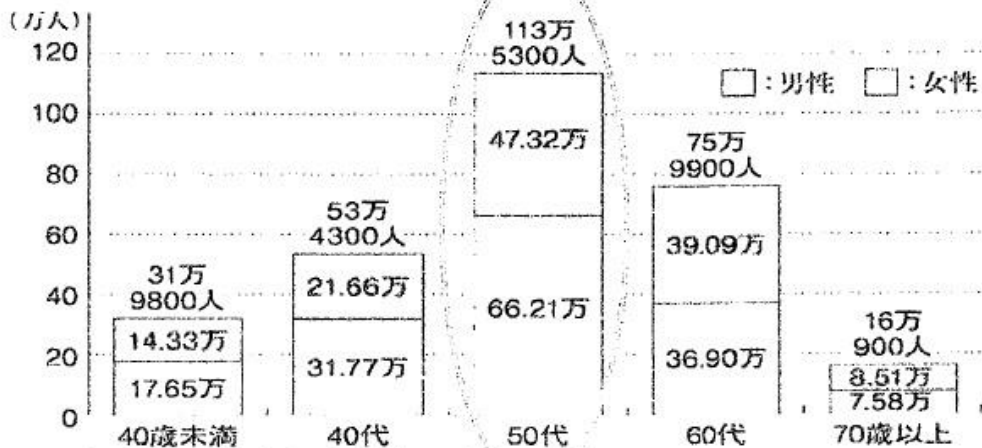


国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(2017年)より

2. 今後の日本の厳しい現実

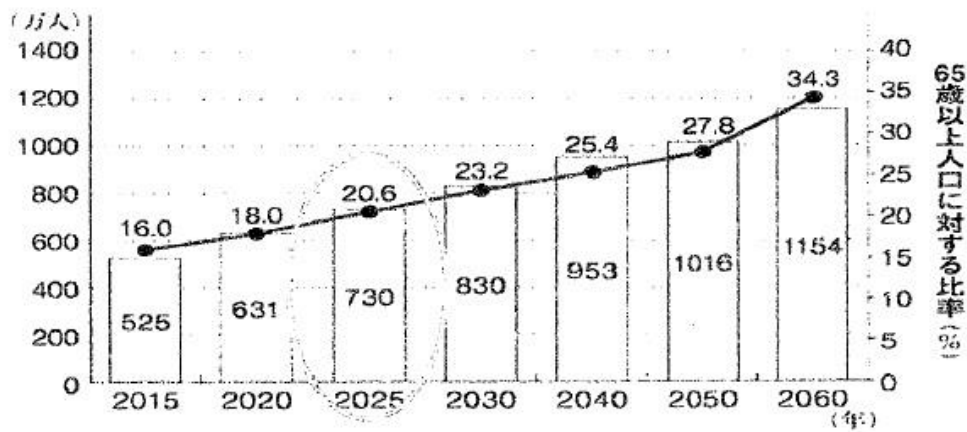


働きながら介護をしている人は50代が最も多い



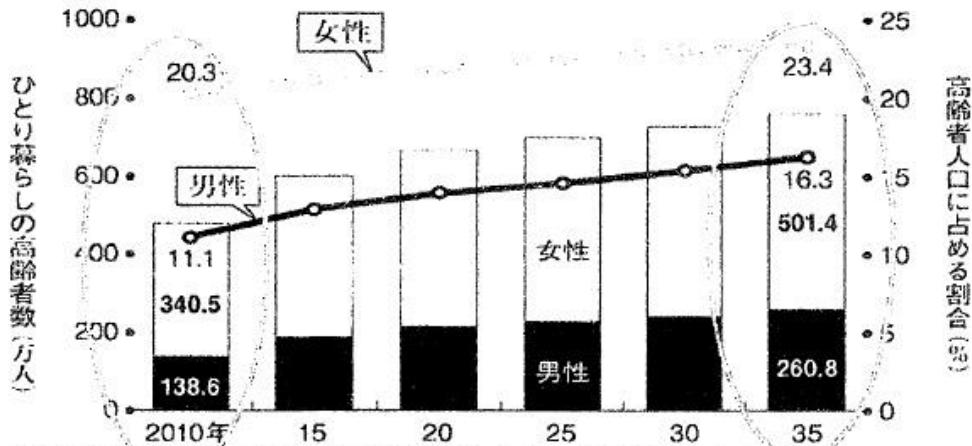
総務省「就業構造基本調査」(2012年)より

認知症高齢者は2026年には700万人を突破



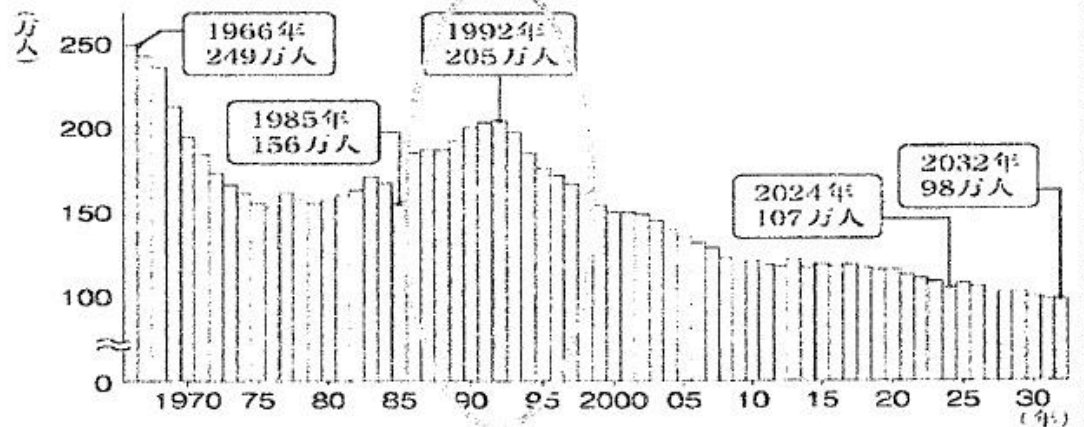
内閣府「高齢社会白書」(2016年)より

ひとり暮らしの高齢者は増加の一途



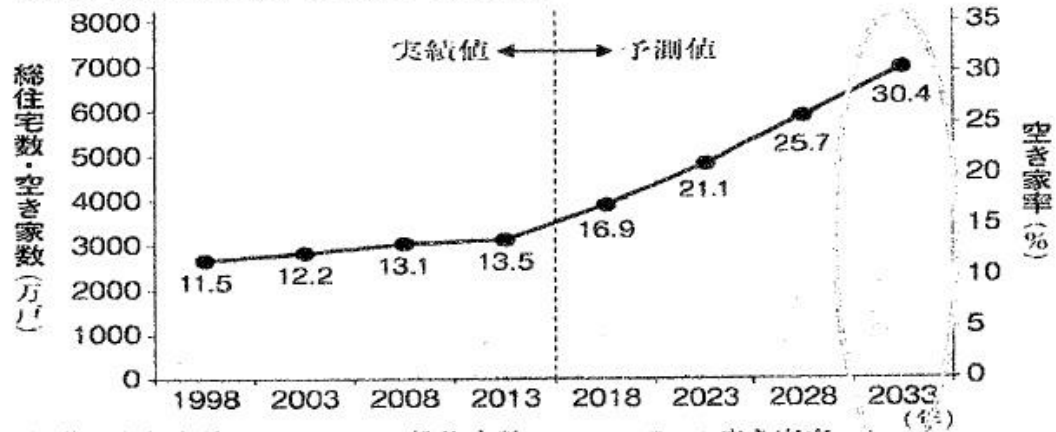
2010年は実績値。内閣府「高齢社会白書」(2016年)より

18歳人口の減少は大学にとって死活問題



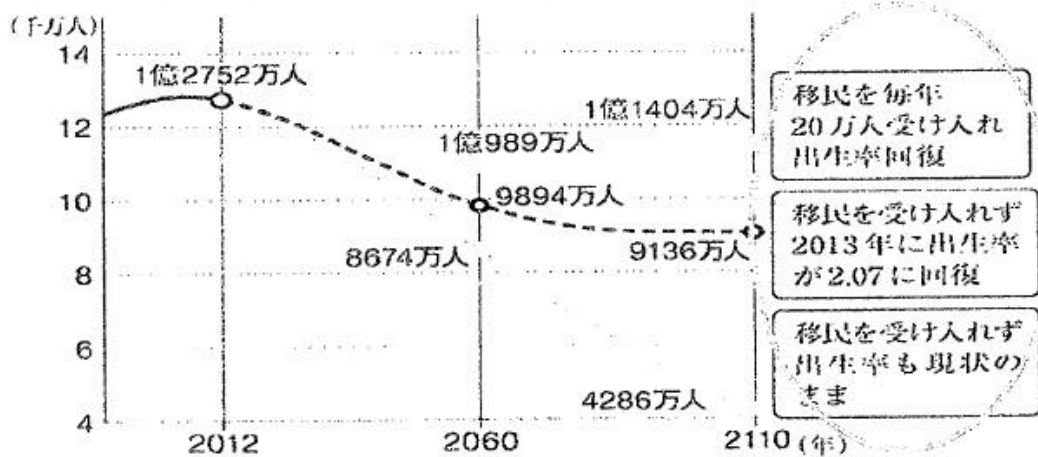
実績値は文部科学省「学校基本統計」、推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2017年)より

総住宅数も空き家数も増え続ける



○：空き家数 (左目盛) □：総住宅数 (左目盛) ●：空き家率 (右目盛)
野村総合研究所の試算 (2016年)、実績値は総務省の調査より

移民を受け入れた場合、人口はこう変わる



内閣府「目指すべき日本の未来の姿について」より

- 移民を毎年20万人受け入れ出生率回復
- 移民を受け入れず2013年に出生率が2.07に回復
- 移民を受け入れず出生率も現状のまま

◆人口減少対策・日本の成功例

1. 消滅可能性自治体と地方創生

消滅可能性都市とは、平成 26 年に日本創生会議・人口減少問題検討分科会が提唱した内容の中の「全国市町村別「20～39 歳女性」の将来推計人口」という推計の中で、基準に該当した 896 の自治体のことを指している。自治体そのものが消滅してしまうというリストではない。

ストップ少子化・地方元気戦略

—戦略の基本方針と主な施策—

【ストップ少子化戦略】

- ① 基本目標を「国民の『希望出生率』の実現」に置く。
- ② 若者が結婚し、子どもを産み育てやすい環境づくりのため、全ての政策を集中する。企業の協力は重要な要素。
- ③ 女性だけではなく、男性の問題として取り組む。
- ④ 新たな費用は、「高齢者世代から次世代への支援」の方針の下、高齢者対策の見直し等によって対応する。

【地方元気戦略】

- ① 基本目標を「地方から大都市への『人の流れ』を変えること」、特に『東京一極集中』に歯止めをかけることに置く。
- ② 「選択と集中」の考えの下で、地域の多様な取り組みを支援。

【女性・人材活躍戦略】

- ① 女性や高齢者、海外人材の括約推進に協力に取り組む。

●基本目標＝国民の『希望出生率』の実現

「国民の希望が叶った場合の出生率（希望出生率）」の実現を基本目標とし、結婚をし、子どもを産み育てたい人の希望を阻害する要因（希望阻害要因）の除去に取り組む。

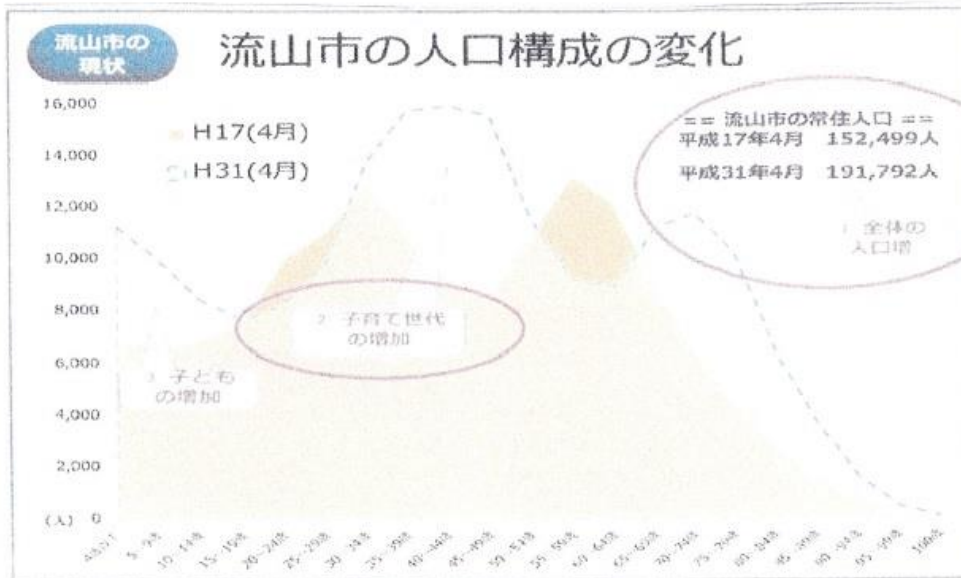
《基本目標》

現状（2012 年）出生率＝1.41 ⇒ 基本目標（2025 年）**希望出生率＝1.8**

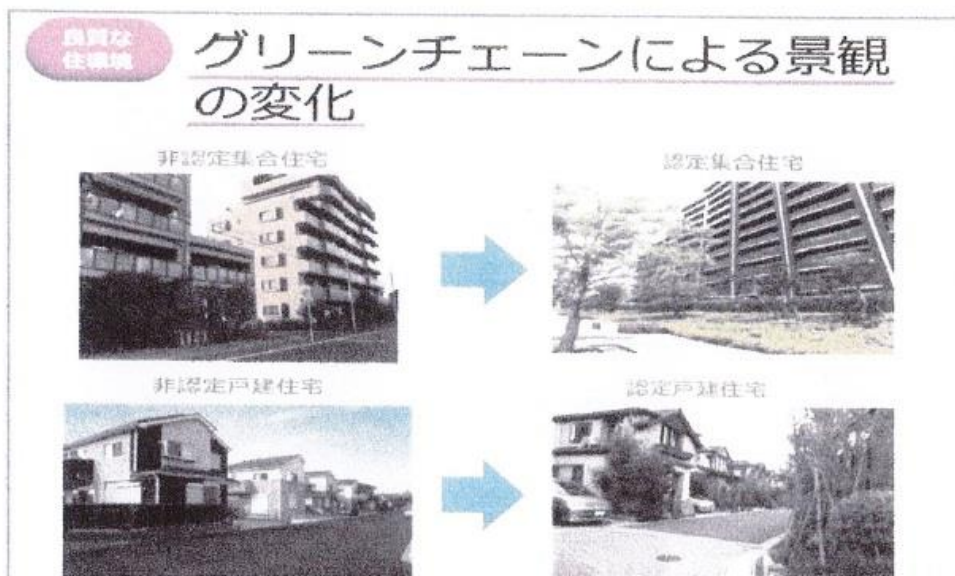
※出生率が 2025 年に 1.8、2035 年に 2.1 となった場合、総人口は 9500 万人で安定し、高齢化率も低下する。

2. 都市部の成功事例・流山市など

●人口減少加速時代の流山市の成長戦略



- 良質な住環境** **住み続ける価値の高い街づくり**
- グリーンチェーン認定制度(2006年)
 - 景観条例(2007年)
 - 開発事業の許可基準等に関する条例(2010年)
 - 街づくり条例(2012年)
 - 高度地区における絶対高さ制限の導入(2016年)
 - 広告物条例(2018年)



1.人口構造の変化

①全体人口の増加 H.17年4月 152,499人 → H.31年4月 191,792人

②子育て世代、子どもの増加が顕著

2.人口減少加速時代の成長戦略

①都心等への交通利便性の改善

・公共交通のアクセス向上

・コミュニティバス「ぐりーんバス」の利用者増

運行便数 H.17年度 9,718便 → H.30年度 80,243便

約8倍

利用者数 H.17年度 51,449人 → H.30年度 909,798人

約18倍

②緑豊かな良質な住環境の維持・向上

・住み続ける価値の高い街づくり

・グリーンチェーンの認定による資産価値の向上

・緑溢れる景観の美しい住宅地の形成

③快適で楽しい都市環境の創出

・リフレッシュできる街

・お洒落な広域集客イベント

・古いまち並みを活かした流山本町イベント

・流山オープンガーデン

・子どものそばで働ける街づくり

④住みたい町としてのブランド化

・流山市ブランド確立へのアプローチ

「10年後も人口の減らない」市民が安心して住み続けられる流山市を実現!!

以上

所感

樋渡啓祐氏のセミナーを始めて受講したが、話の内容が経験と実践に基くもので受け入れやすかった。また、武雄市のICT教育への取り組みの素晴らしさを実感した。歴史も大事だが、子供のICT教育はもっと大事と思うが・・・

— 作成者 松崎正和 —